

平成 28 年度環境・社会理工学院共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	環境・社会理工学院
研究者(フリガナ)	奥山 信一 (オクヤマ シンイチ)
タイトル	国際的建築家育成を目指した国際デザインワークショップ
助 成 名	国際連携研究助成
採択金額	500,000 円
<p>背景と目的</p> <p>本プロジェクトは、本学建築学系と中国上海同济大学との間で、2003 年より継続して実施してきた建築および都市デザインに関するジョイントワークショップを敷衍し、実施・計画されたものである。異なる文化、風習、制度を背景としたそれぞれの地域で、いかなる建築および都市デザインをなし得るかを検討することは、グローバル化が急速に進行する現代社会における 21 世紀の都市デザインを模索する上で不可欠と言える。今回のプロジェクトでは、中国天津近郊の歴史的街区を敷地とし、その地域の再編計画を行った。敷地の隣には文化遺産である独楽寺があり、多くの都市生活者や観光客が訪れる場所である。また、住居が高密度に集合したエリアでもある。しかし、住居の老朽化が進むなかでのスラムクリアランスの必要性や、城壁やパゴダといった歴史的な建造物との関係を再考し観光資源として再開発する必要性にも直面している。このような都市における文化的構築物周辺地域の再編に関する都市的課題は、中国だけでなく、世界中の多くの地域で解決を迫られる、きわめて 21 世紀的な都市計画に関する普遍的な課題である。そこで、今回のワークショップでは、上記のテーマに関して、都市的スケールだけでなく建築的スケールをも含めた具体的な構想案を作成することを目的とした。</p>	
<p>実施概要</p> <p>実施スケジュール (2016 年 11 月)</p> <p>第 1 日 : 移動日 (東京—天津)</p> <p>第 2—3 日 : 計画対象地調査・ワークショップ (協同作業)・中間発表 1</p> <p>第 4 日 : 移動 (天津—上海)・ワークショップ (協同作業)</p> <p>第 5—13 日 : ワークショップ (協同作業)・東工大教員による一般公開レクチャー・中間発表 2、3</p> <p>第 14 日 : 最終発表会</p> <p>第 15 日 : 移動日 (上海—東京)</p>	
<p>本年度の成果</p> <p>平成 28 年度は、中国の 4 大学 (同济大学、天津大学、東南大学、華南理工大学) と本学の計 5 大学により実施し、上記の目的に対して大きな成果が得られた。</p> <p>ワークショップは、まず 11 月下旬の約 2 週間で、中国の天津および上海において、敷地および関連する水郷集落の調査、設計案の作成とエスキスチェック、数回にわたるプレゼンテーションを行った。その後、各大学が 11 月のワークショップの成果について検討した後、2 月に本学に再び集まり、約 1 週間で提案内容の再検討を経た後、プレゼンテーションを実施した。</p> <p>本年度の成果は、まず、急速な発展を遂げている天津、上海など、中国国内の都市を視察するとともに、その発展に取り残された本課題敷地のようなエリアを同時に調査することで、中国の都市空間の実状を体験した。実際に中国で生活する学生の案内により、日本人学生だけではなかなか分からない都市の実状を</p>	

国際連携用

掘り下げて議論し、具体的提案物として提出することで、それぞれのグループが、21世紀において、将来的に必要とされる都市計画の問題点をつかみ取った。また、世界遺産に指定された住居群の視察を通して、地方によって全く異なる都市形成を発見するとともに、それを支える中国の歴史にも深く触れることができた。このジョイントワークショップは、建築学系における創造性育成科目の一つである「建築意匠設計第二」の一環として行われた。今年度は日中学生に加えて、日本や中国など異なる文化圏に属する学生が、一つの目標に向かって調査・ディスカッションを重ね、共同作業を行い、最終的に創作的成果物（マスタープラン図面、模型など）を作成するという本プログラムの実施によって、国際性豊かな思考力、プレゼンテーション力、およびコミュニケーション能力の向上に大きく貢献するものとなったと考える。本ワークショップのように、複数年度にわたり継続的に実施される類似研究がみられないことから、今後も長く継続して実施することは、建築学系に留まらず、全学的見地から鑑みても、意義があると考えられる。

使用内訳書

費 目	内 訳	金 額
備品 1		
備品 2		
消耗品		
旅 費	2016/11/13～11/24：奥山信一：250,000- 2016/11/13～11/27：村田涼：250,000-	500,000-
その他		
合 計		500,000-

記入上の注意：

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。